

第 2 回 屋 島 会 議

参 考 資 料

1	屋島の環境条件	1
(1)	自然環境	1
(2)	社会環境	5
2	屋島の歴史と文化財	16
(1)	屋島の歴史年表	16
(2)	屋島の文化財	19
3	法規制・上位関連計画等	25
(1)	屋島に係る法的規制	25
(2)	管理計画等	34
(3)	上位計画	37
(4)	関連計画等	38
4	これまでの調査	53
(1)	これまでの発掘調査等	53
□	屋島に関する意見等	55

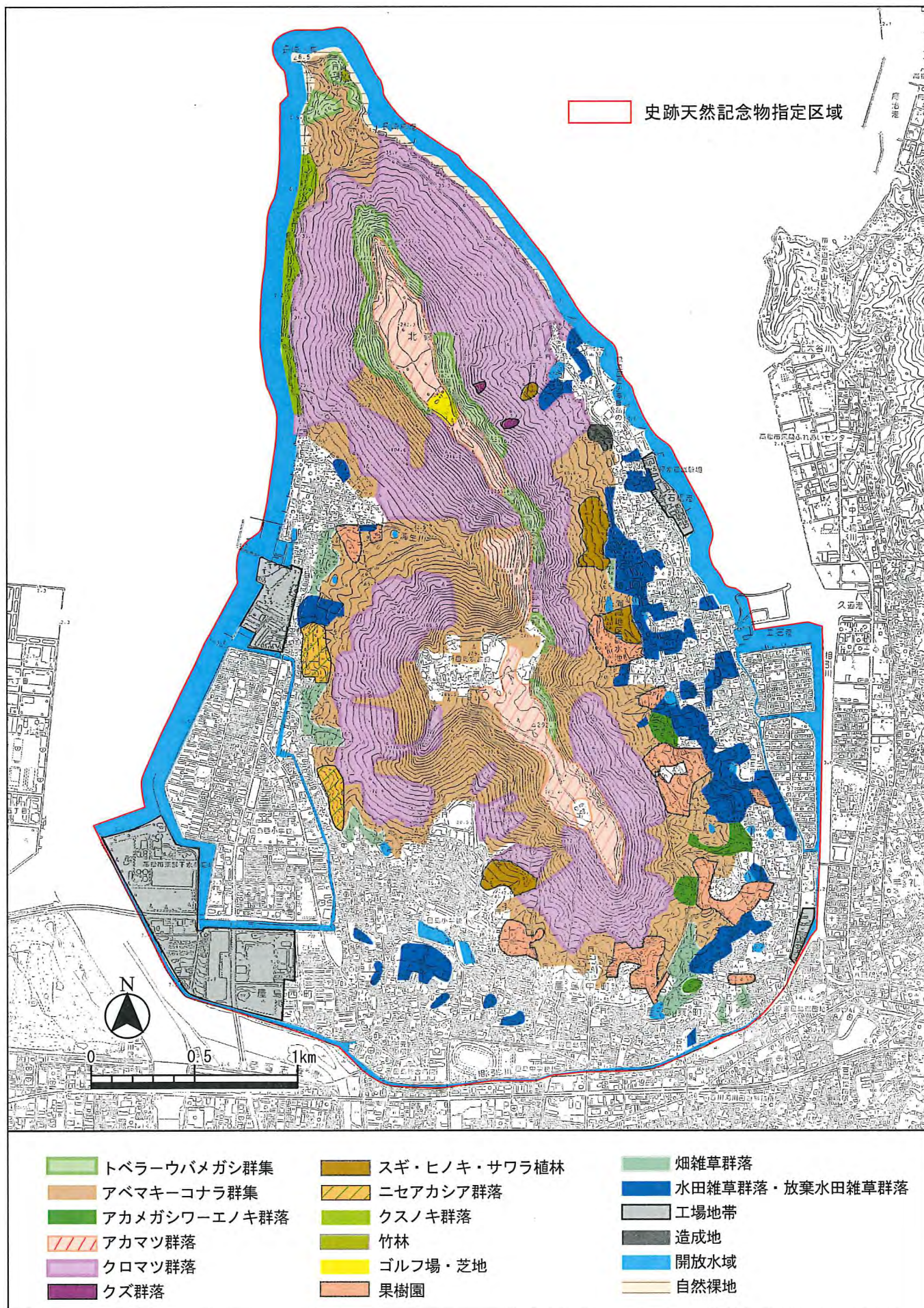
平成23年10月25日

1 屋島の環境条件

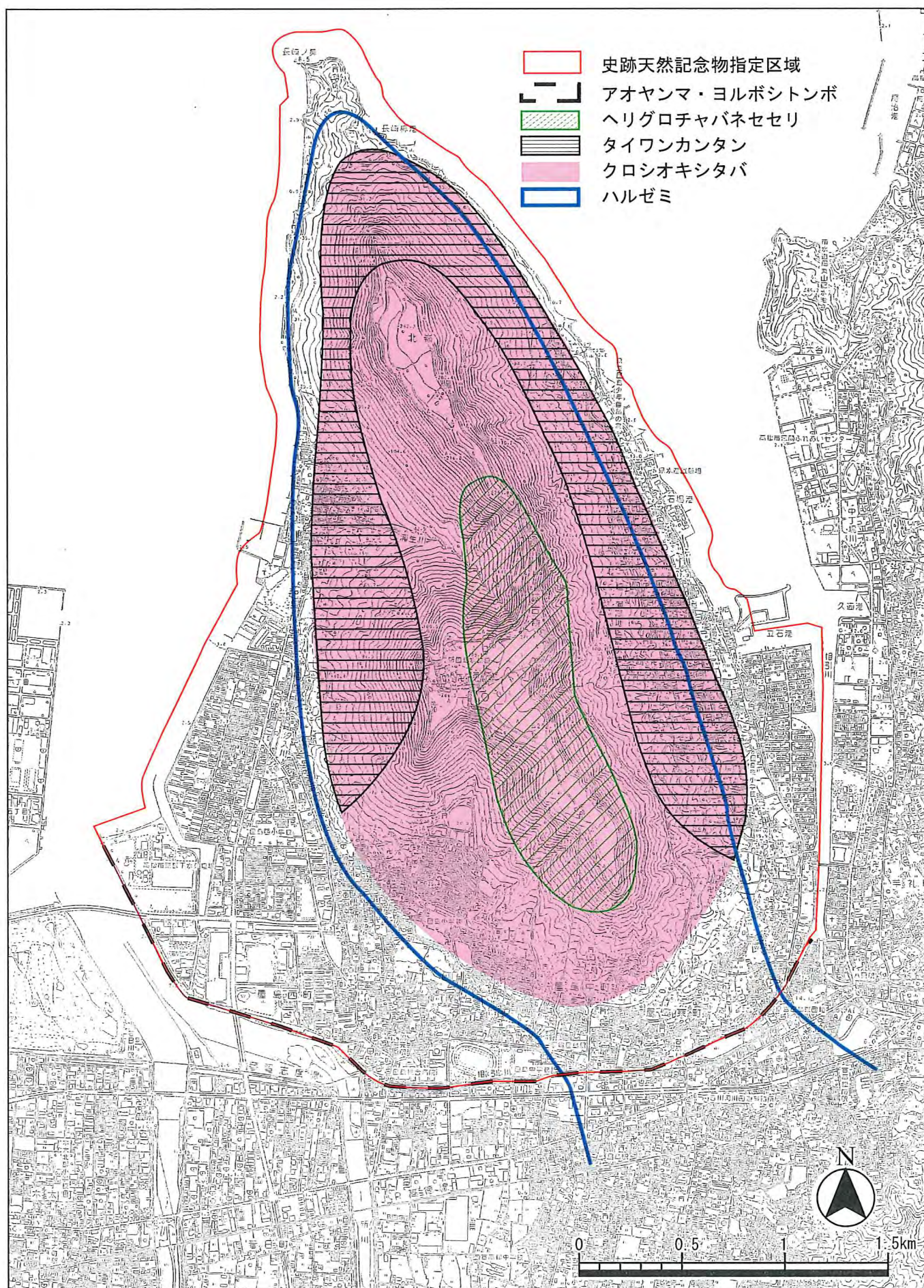
(1) 自然環境

項 目	概 要
地形・地質	・瀬戸内海に突き出た南北に長い、台地状の孤立丘。かつては島であった。 ・標高292m(南嶺)、283m(北嶺)、南北幅約5Km、東西幅約2Km。 ・山上部は平坦、中腹は急峻、山麓は緩傾斜、沿岸は平坦で、メサ地形の標型で溶岩台地よりなる。 ・地質は基盤層が新期嶺家花崗岩類からなり、この上層に瀬戸内海火山岩類（讃岐層群）の凝灰角礫岩、讃岐岩質安山岩等が、さらにその上層に屋島礫層などが分布。 ・屋島の島としての特徴を表現する主要な要素であるが、近年裾部において道路、住宅等の開発整備より、変貌が進んでいるところがある。
水 系	・概ね南北に走る山頂尾根部が東西方向の分水界を形成。 ・主な河川としては屋島の裾部に相引川や汐入川があり、その他屋島の南嶺と北嶺を分け西へのびる谷部を流れる浦生川と南部住宅地区を貫流する大谷川があげられる。 ・山麓部、特に東麓に数多くの溜池が分布する。 ・屋島の西側、北側、東側は海域。 ・市街地における溜池は近年埋め立てられているところがある。 ・水質汚染がみられる海域がある。
植 生	・全体的にマツ群落が優先しており、屋島全体を緑で覆っている。斜面部分はクロマツ群落が広く分布、山頂平坦部はアカマツ林。 ・ウバメガシ群落は屋島の特徴的な植生である。北嶺の北斜面一帯に原生林に近いウバメガシ林が優占分布している他、南嶺にも点在している。 ・マツクイムシによる被害が目立ち、マツ群落内にコナラ、クヌギ、クリ、カエデ等の落葉広葉樹も見られる。 ・国有林のマツ枯れ対策等を含む管理は営林署によって行われているが、広大な面積であるため、また環境等への影響から薬剤散布にも制限があるため十分な管理は難しい状況である。 ・また、樹木が繁茂している箇所も少なくなく、眺望を妨げているところも所々にみられる。 (P3植生図参照)

項 目	概 要
動 物	・ 哺乳類－小型哺乳類のみで、コウモリ類（主として採石跡の洞窟に生息）、食虫類、野鼠類が確認されている。かつて洞窟（採石跡地）に数多く生息していたコウモリは激減している。 ・ 鳥 類－山間部約75種、水辺・海岸域約70種を確認。 留鳥－ミサゴ、トビ、キジバト、ヒヨドリ、ウグイス、メジロ等 夏鳥－サシバ、オオルリ、ホトトギス等 冬鳥－シロハラ、ツグミ、ジョウビタキ等 ・ 両生類－アマガエル、アカガエル等7種を確認。 ・ 爬虫類－ニホンヤモリ、ニホントカゲ等10種を確認。 ・ 昆 虫－豊富で各目合計353種を確認。 アオヤンマ、ヨツボシトンボ、タイワンカンタン、クロシオキシタバ、ハルゼミは貴重種(P4貴重な動物分布図参照)
景 観	・ 瀬戸内海が多島美が眺められる展望地。 ・ 瀬戸内海に突き出した山頂部の平坦な屋根のような形をした緑の台地状地形は特異な景観として、高松市のシンボル、ランドマーク的景観となっている。 ・ 屋島の代表的景観。 北部海岸一帯・・・砂浜や磯、露岩の急崖等自然性の高い海岸景観 浦生集落一帯・・・緩傾斜面に漁港を中心に密集する歴史的集落景観 屋島東町山麓・・・緩傾斜面に田畑、果樹園、溜池が広がり、農地の間に民家が散在する田園集落景観 屋島西町塩田埋立地・・・計画的に開発された中高層住宅、公園、道路、都市施設等からなるニュータウン景観 屋島東町塩田埋立地・・・低層住宅の整然と立ち並ぶ住宅地景観 南・西部斜面・・・斜面住宅景観、神社等のある歴史文化的景観 南部低地・・・農地、住宅地、都市施設等の混在した景観 山上平坦部・・・屋島寺、土産物屋など立地する文化観光地的景観 山上周辺斜面・・・豊かな樹林に覆われ、屋島を代表する自然景観 ・ 屋島裾部の平坦地(市街化区域)等においては数多くの住宅や大規模構造物が分布し、屋島の南裾部では景観が変わりつつある。



植生図 第6回・第7回官公庁自然環境保全調査(平成12年)を一部修正



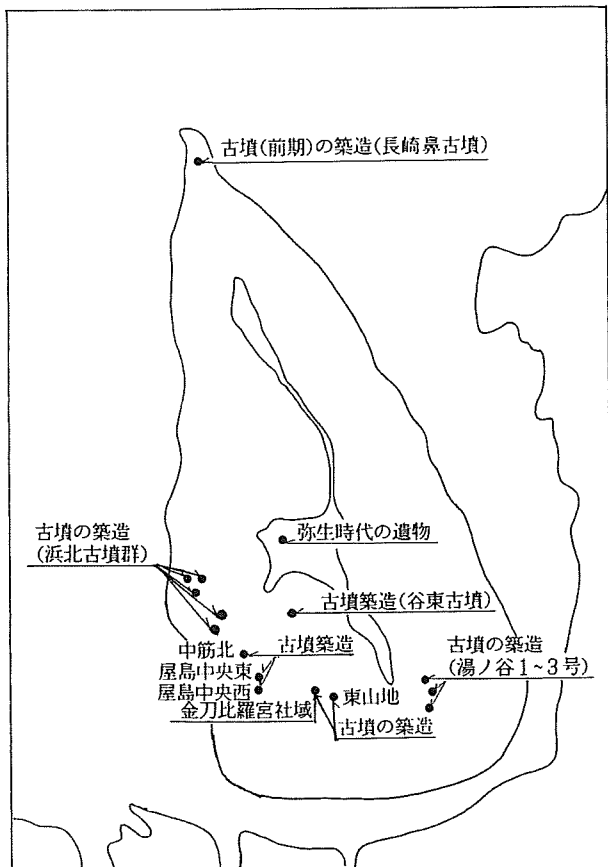
第2回環境庁自然環境保全基礎調査(昭和57年)一部修正
貴重な動物分布図

(2) 社会環境

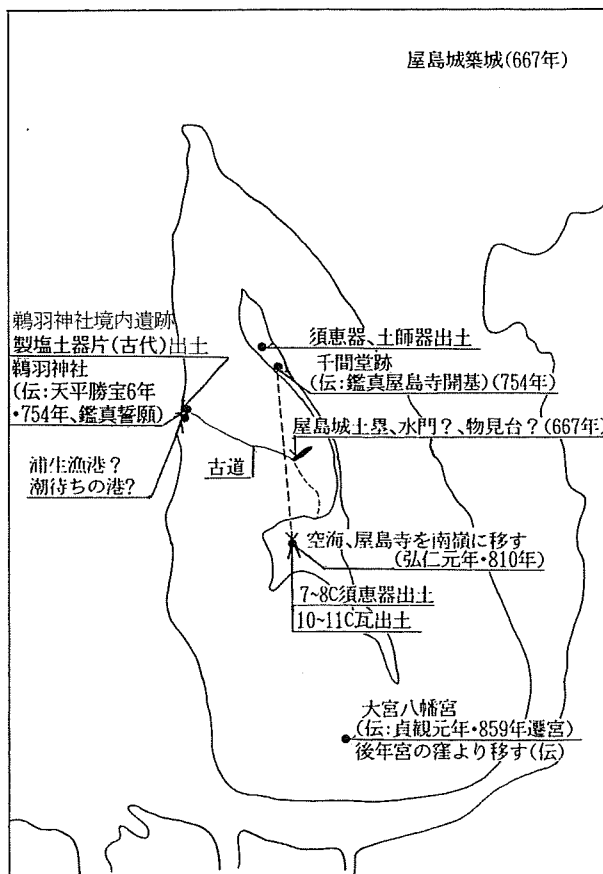
項 目	概 要
土地利用	<現況土地利用> ・屋島の中央部に山頂の平坦地があり、それを山麓斜面や平坦地がとり囲み、さらに水面（海、河川）がとり囲むという環状の地形が、概ね程度土地利用を規定している。 ・斜面地は概ね樹林地（一部畑地、果樹園等）となっているが、他の地区の土地利用は多岐にわたる。 山頂平坦・・・屋島寺とそれに関連する宗教施設、商店や観光レクリエーション施設が分布 山麓部・・・大半が農地、溜池、宅地他 南部には社寺等宗教施設や商業施設が分布 沿岸平坦部・・・東西の塩田跡地を主として住宅地、供給処理施設、業務施設、商業施設等が分布 南部相引川周辺は文教、業務、商業、住宅、公園等が混在 海岸部・・・港湾、漁港が分布 <土地利用の変遷> ・古くからの集落地、斜面地ではさほど改変はない。 ・山麓平坦部での変化が著しい。 ・特に塩田跡地は塩田の廃止や市街化区域の線引（昭和46年）が重なったため、土地区画整理事業等により宅地化が推進された。 ・一部山麓部の農地の宅地化も進む。 ・海岸部においては浦生漁港、石場港、立石港付近において埋立がなされ（昭和30年代）、海岸線が変化している。 (P7～9土地利用変遷図参照)
道路・交通	・屋島内の道路は県道、市道、有料道路(屋島ドライブウェイ)などの車両通行可能道路及び歩行者道路からなる。 ・地形条件からも車両通行可能道路は主に山麓部、平坦地に集まる。 ・古くからの集落を通る道路は狭隘である。 ・歴史的な道路である遍路道がある。 ・山麓から山頂に至る車道は唯一有料道路のみである。 ・北嶺山頂から長崎ノ鼻に至る山道は一部環境庁の補助事業で整備されている。 ・山頂に至る動線としてケーブル(屋島登山鉄道)があったが、平成16年に閉鎖された。 ・屋島南端を東西に鉄軌道である高松琴平電鉄志度線が東西に走っている。 (P10道路交通網図参照)
人口・世帯数	・屋島地域の人口は21,574人(市の約5%)、世帯数は9,179世帯(市の約5%)となっている。(平成22年3月31日現在) ・南部平坦地部は人口集中地区となっている。

項 目	概 要
産 業	・屋島はかつて農業、漁業、商業の他、塩業、採石業、窯業などもみられ、産業の場として活用された。 ・しかし、採石業の廃止に続き、戦後には塩田も廃止となり、都市化が進むにつれ、農業の兼業化、漁業の養殖化等が進んだ。 ・一方、明治中頃から観光産業が興り、その後、屋島は高松市を代表する観光地となった。しかし、昭和63年の瀬戸大橋開通時200万人を超えた観光客は、近年は約60万人となっている。
観光レクリエーション	・屋島は栗林公園とともに高松市を代表する観光地である。 ・主たる観光施設として屋島寺、眺望（屋島三大景～獅子の霊巖、談古嶺、遊鶴亭）、新屋島水族館、四国民家博物館（四国村）がある。源平合戦古戦場などの名所、旧跡がある。 ・屋島寺は84番札所として、多くの善男善女の参拝がある。 ・屋島寺周辺は国立公園の集団施設地区となっている。 ・一般的観光形態は、ドライブウェイ（有料道路）を利用し、山頂を訪れ、屋島寺参拝、眺望を楽しむという立寄り型である。 ・屋島でのイベントとしては、お宝発見ツアー等が行われている。 ・屋島には市営の陸上競技場がある。 ・屋島の周辺には栗林公園、玉藻公園（史跡高松城跡）といった数多くの来訪者のある観光施設がある。 （P11主な観光・レクリエーション施設分布図、P12屋島及び周辺主要観光施設位置図、P13主要観光施設の年度別利用者の推移参照）
公共施設	・屋島は市街地にあり、2万人余の居住者を有するため、都市基盤施設としての公共施設が数多く分布する。 ・公共施設としては、小、中学校、幼稚園、保育所、コミュニティーセンター、公園、下水処理施設、港湾施設、公営住宅等があげられる。 （P14公共施設分布図参照）
民間施設	・屋島には住宅以外にも様々の民間施設が分布している。 ・主たる民間施設は、観光レクリエーション施設、商業施設（宿泊、飲食、土産物他）、業務施設、福利厚生施設、工場等である。 ・その他屋島には数多く宗教施設が分布する。 （P15屋島山上建物配置図参照）
土地所有	・屋島は斜面地等の樹林地が概ね国有地で、他は大半が民有地となっている。 ・南嶺山上の平坦地は概ね民有地（屋島寺他） ・北嶺山上の平坦地は国有地（環境省） ・斜面地は概ね国有地（林野庁） ・山麓の緩斜面地は概ね民有地 ・埋立地等平坦地は大半が民有地（一部市有地他） ・海域は国有地

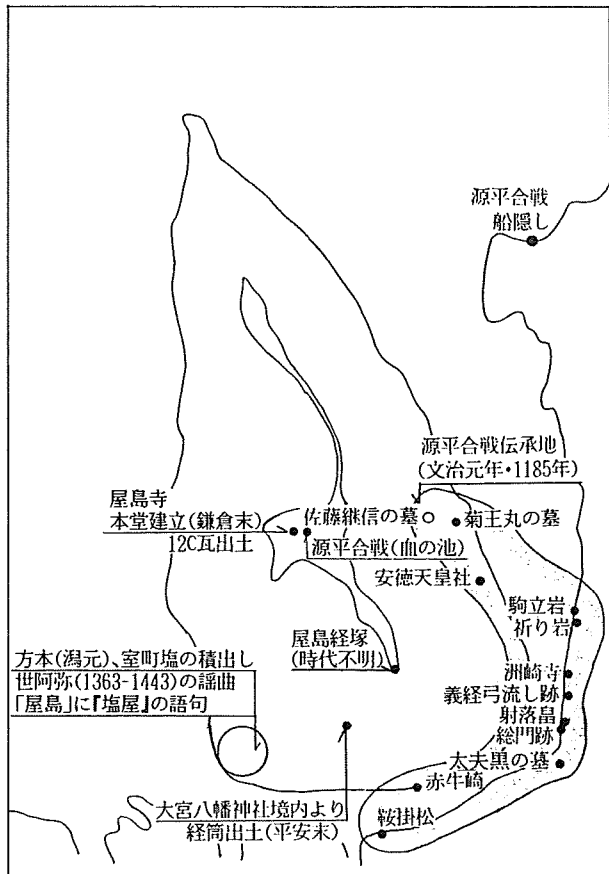
< 原始の屋島 >



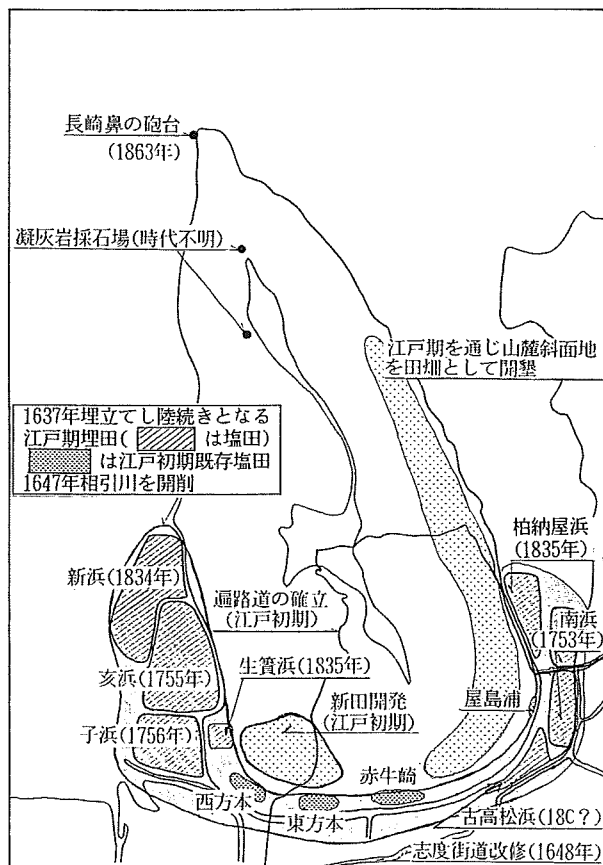
< 古代の屋島 >



< 古代末~中世の屋島 >

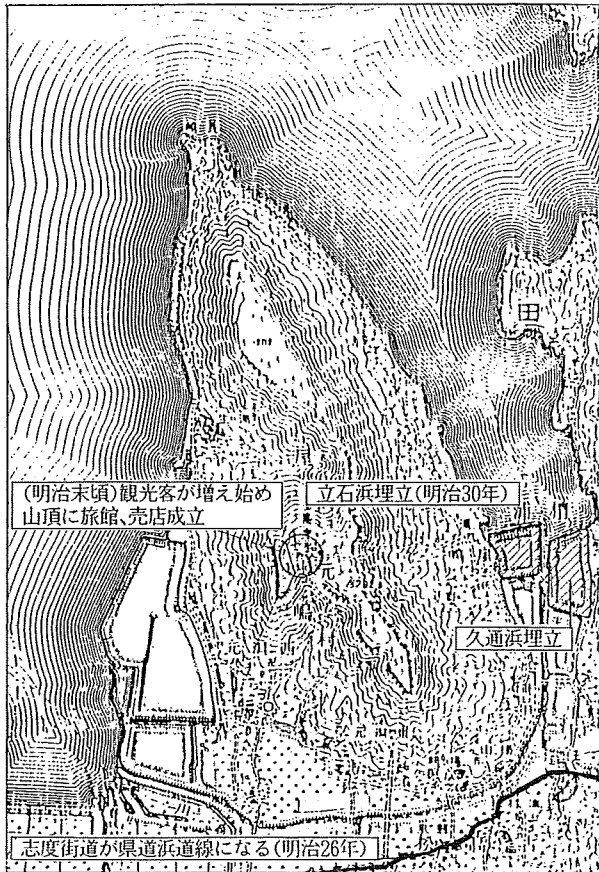


< 近世の屋島 >

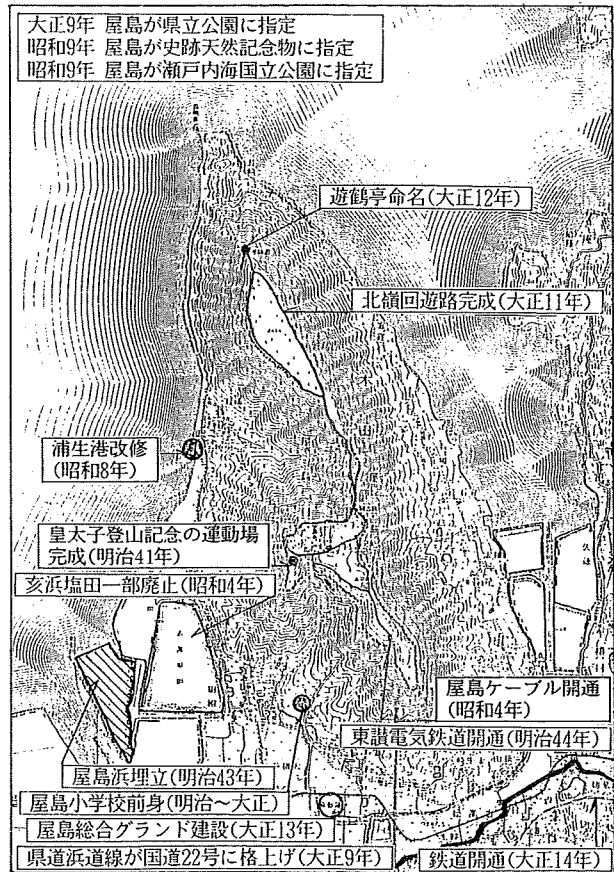


屋島の変遷図一 1

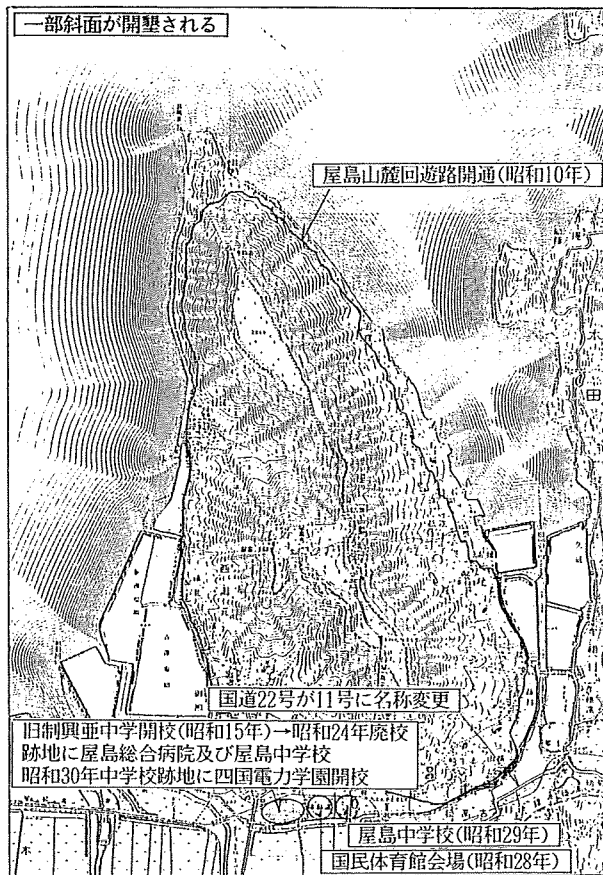
< 明治時代の屋島 (明治34年発行図・明治30年測量) >



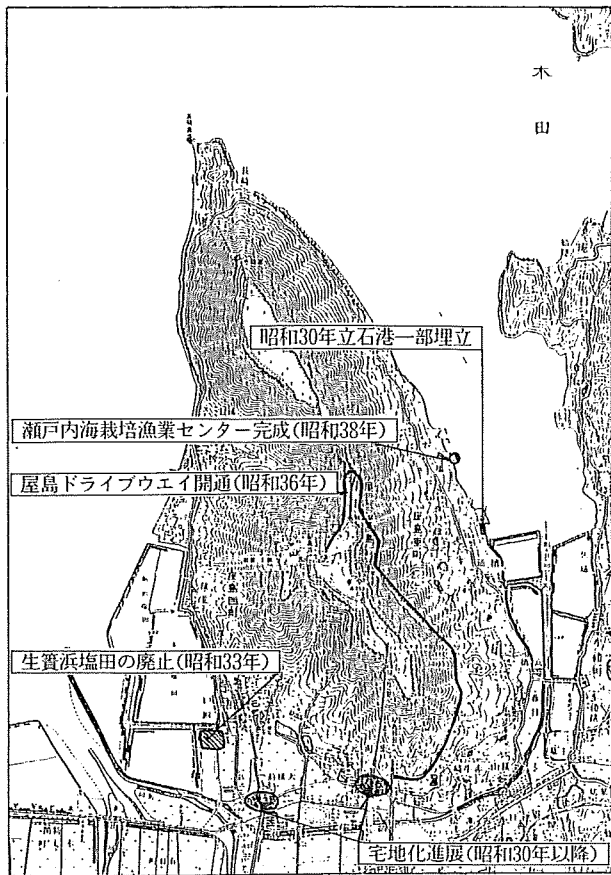
< 明治時代末～昭和初 (史跡天然記念物指定) の屋島 (昭和6年発行図・昭和3年測量) >



< 昭和10年～30年頃の屋島 (昭和22年発行図) >

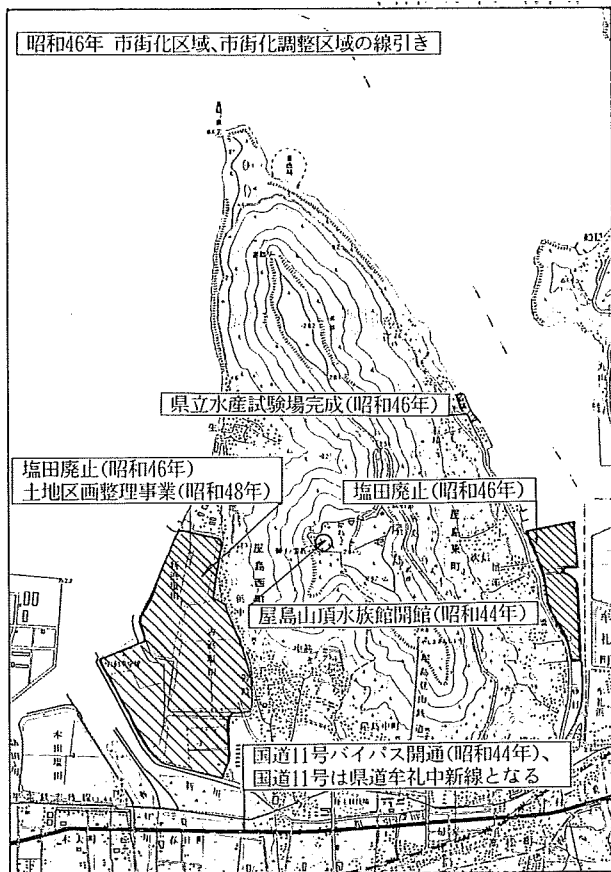


< 昭和30年～43年頃の屋島 (昭和41年発行図) >

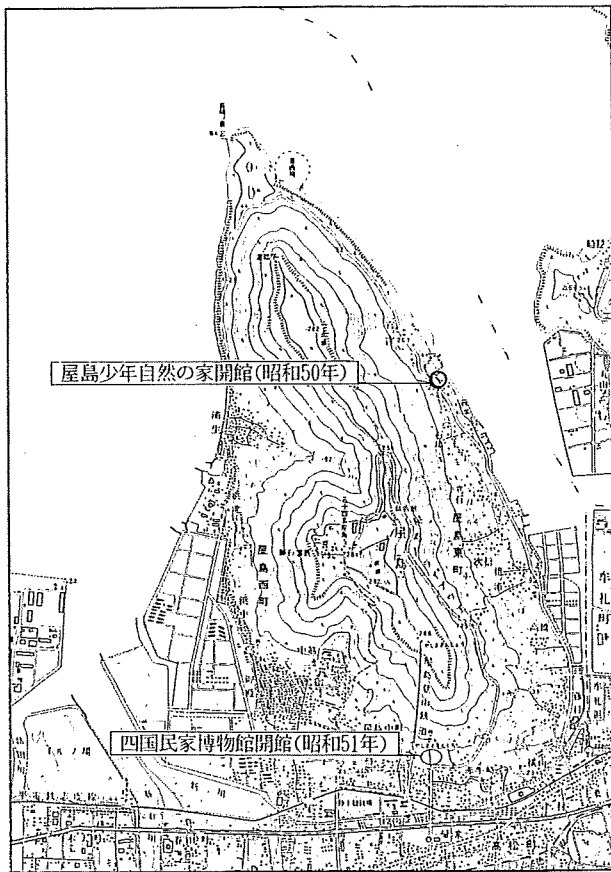


屋島の変遷図－2

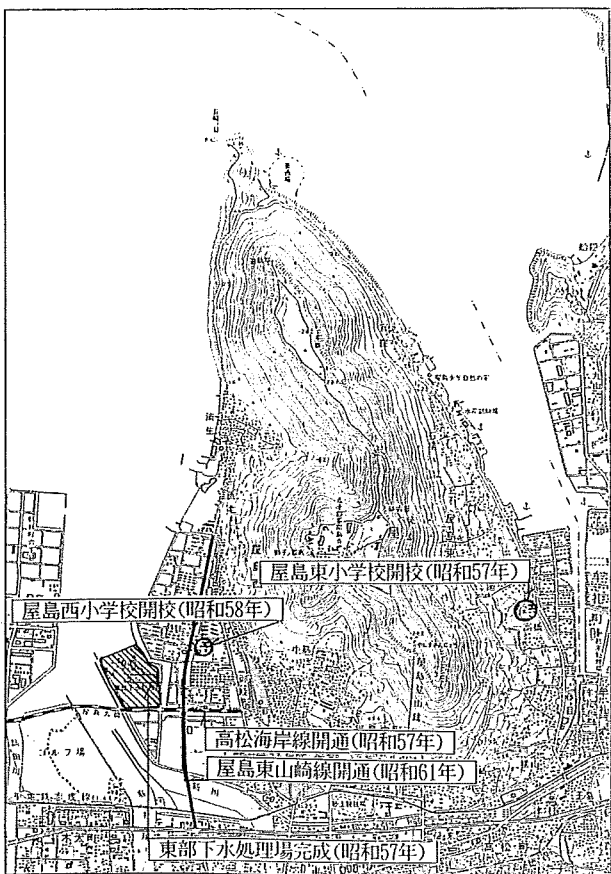
< 昭和40時～塩田廃止(昭和46年)頃の屋島
(昭和48年発行図)>



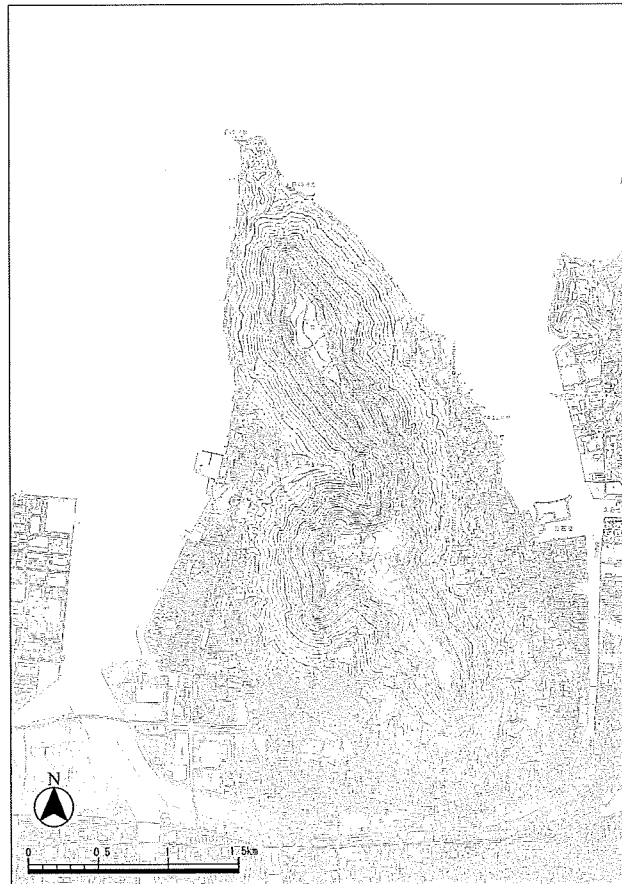
< 平成50年頃の屋島(平成54年発行図)>



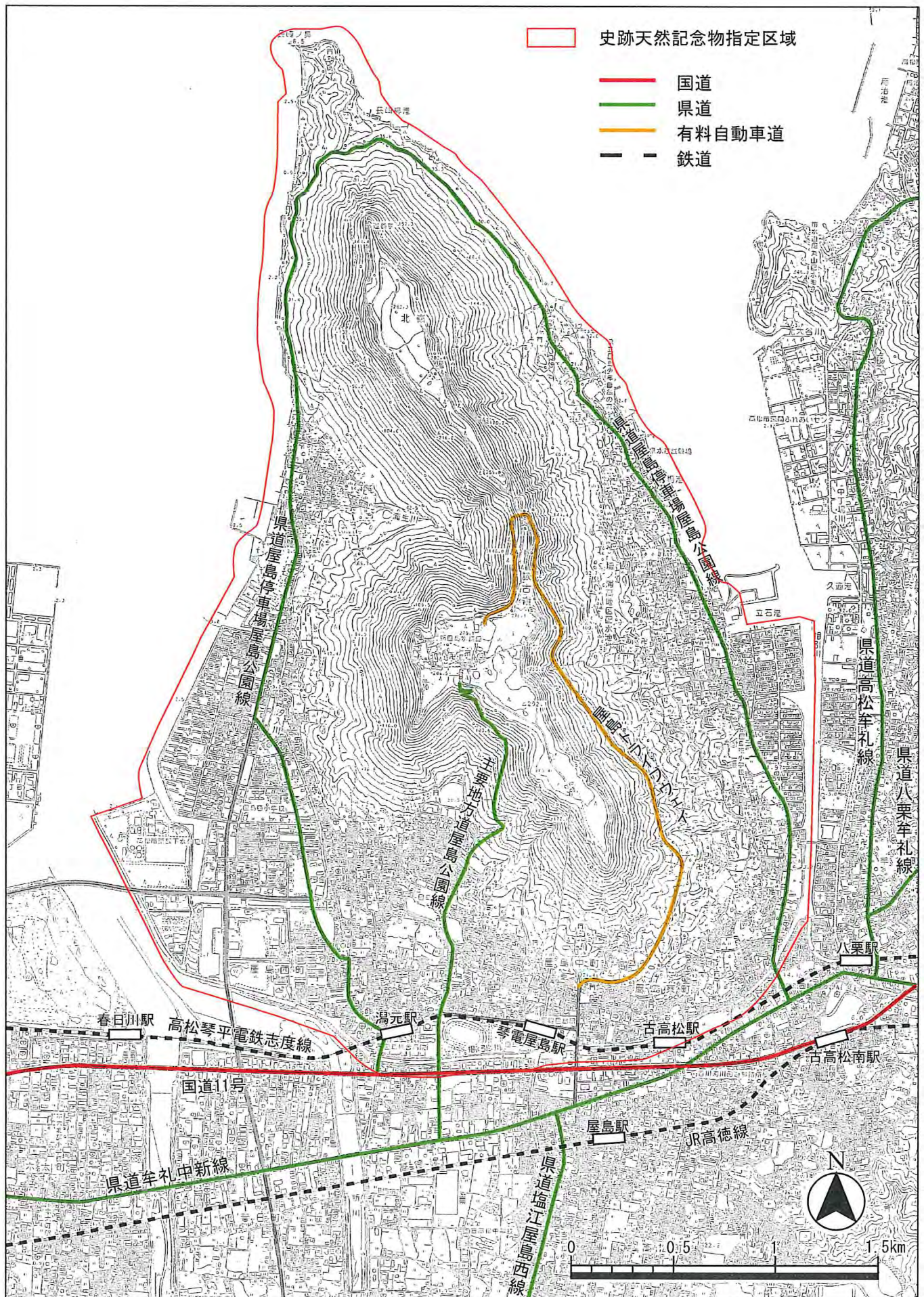
< 平成5年頃の屋島(平成5年発行図)>



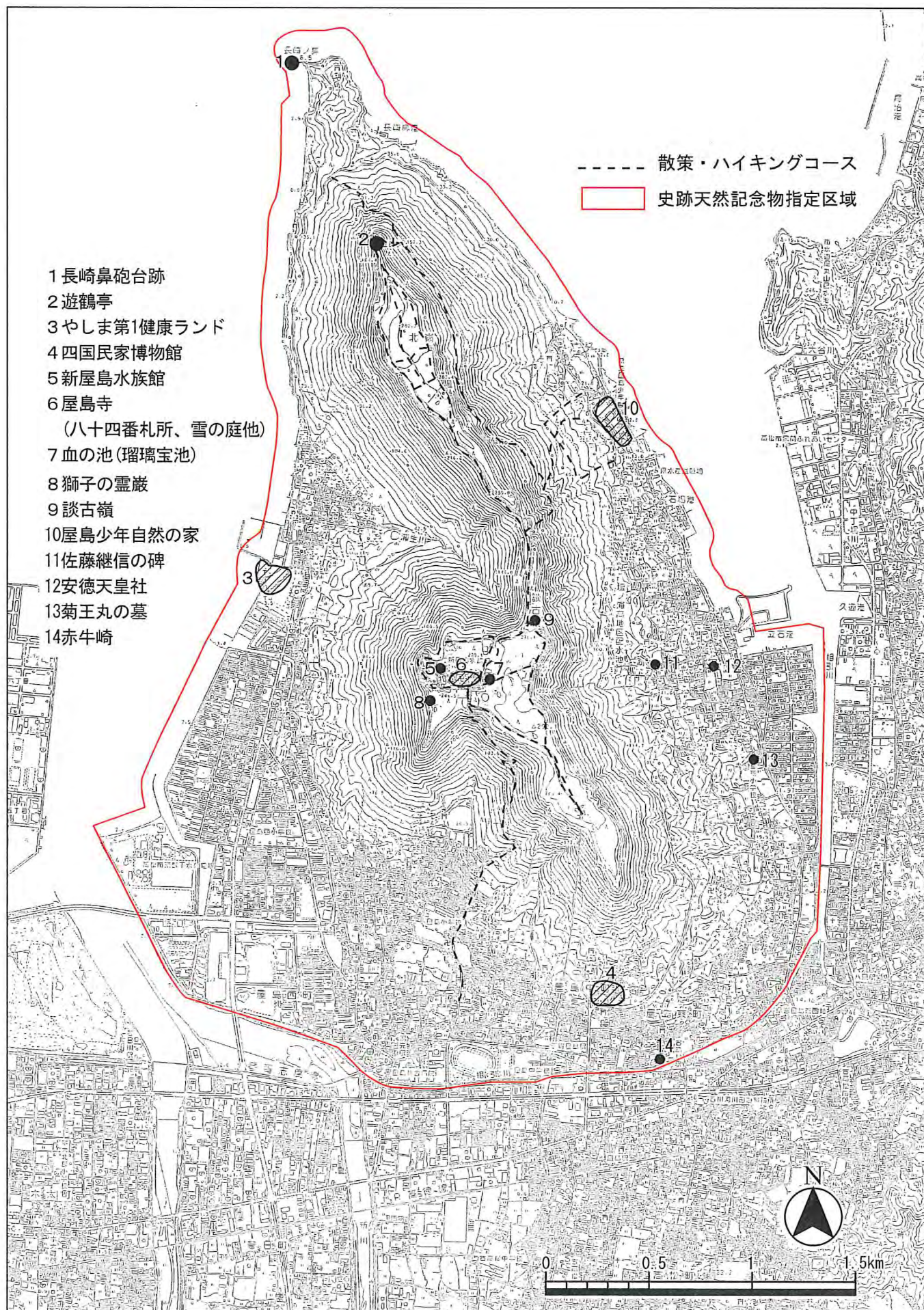
< 現在の屋島 (平成22年3月調整図)>



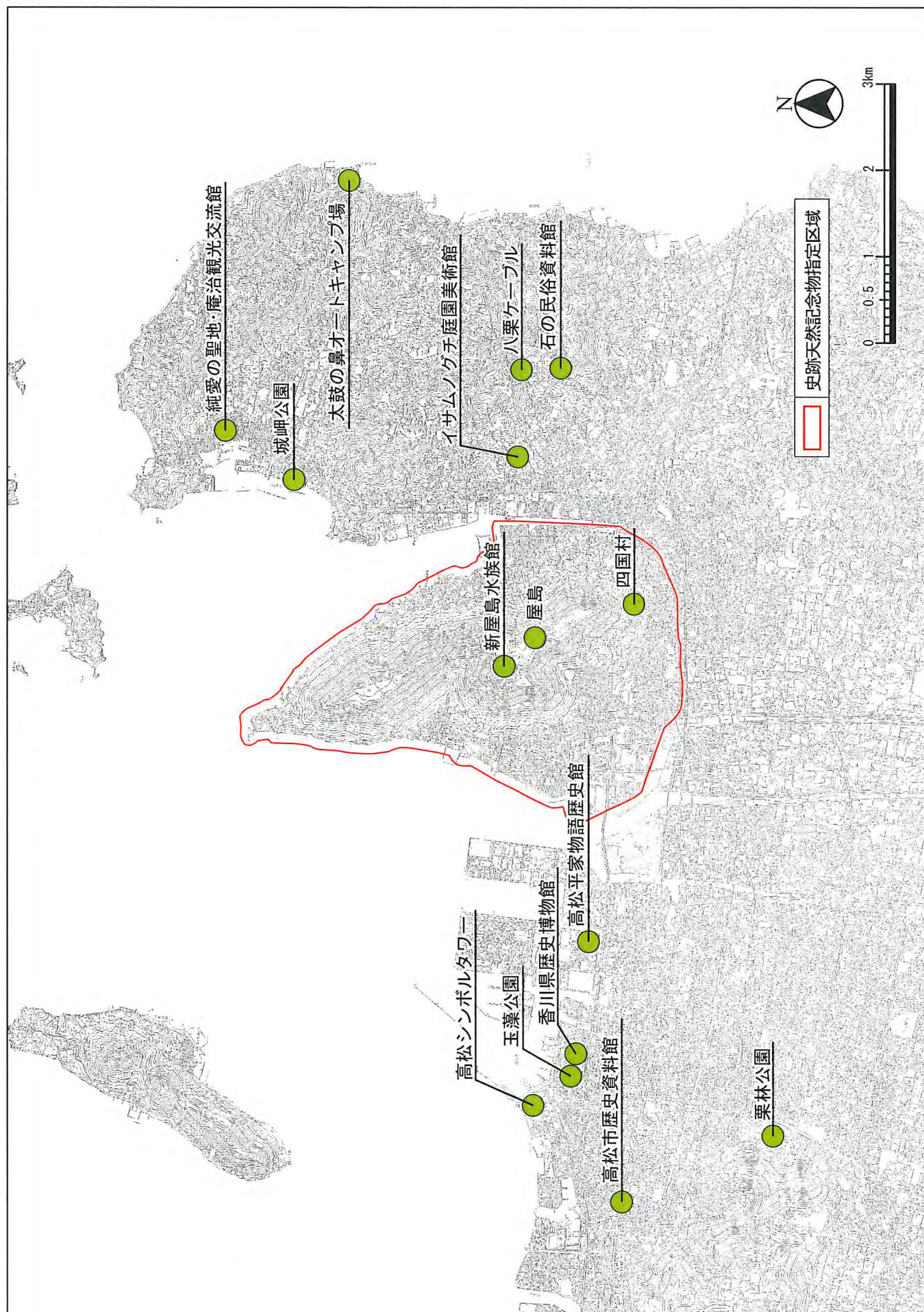
屋島の変遷図－3



道路交通網図



主な観光・レクリエーション施設分布図



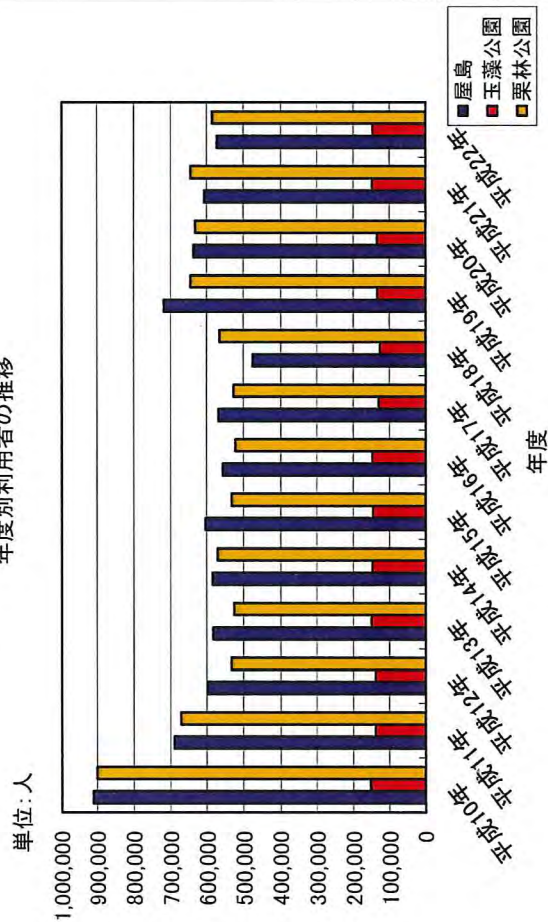
屋島及び周辺主要観光施設位置図

主要観光施設の年度別利用者の推移(平成10年～22年)

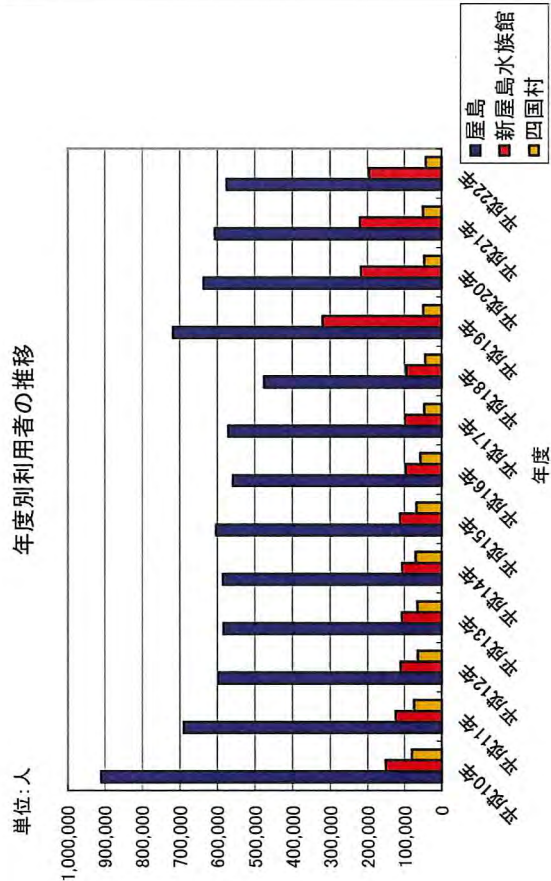
(単位:人)

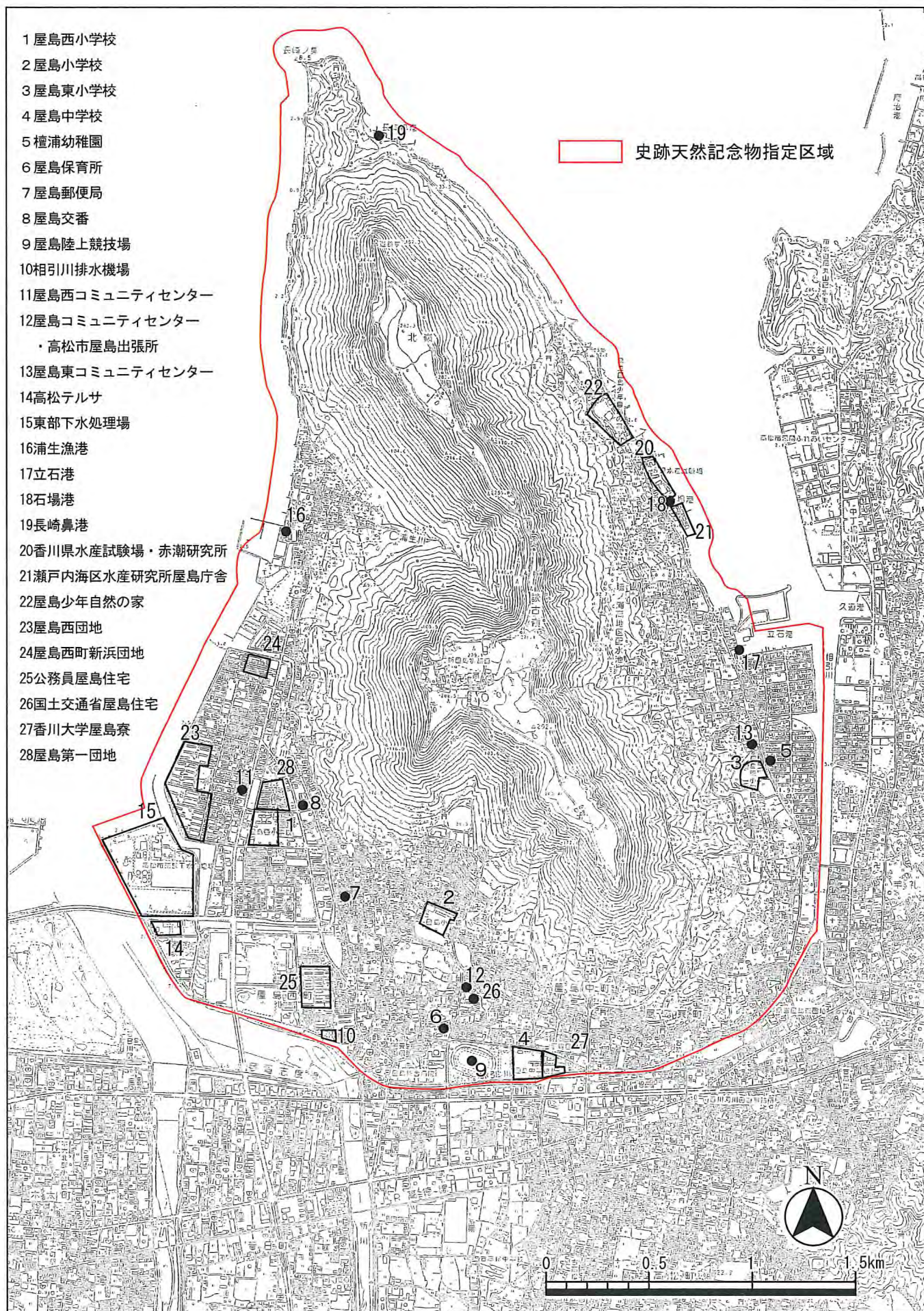
名称	平成10年	平成11年	平成12年	平成13年	平成14年	平成15年	平成16年	平成17年	平成18年	平成19年	平成20年	平成21年	平成22年
屋島	911,349	689,984	598,191	583,327	585,157	603,565	558,502	570,425	476,037	718,812	636,867	606,890	574,985
新屋島水族館	152,055	125,676	112,093	108,394	107,606	113,541	96,086	99,203	94,504	319,957	218,350	221,337	195,690
四国村	80,904	75,779	66,261	66,719	71,301	68,814	59,558	48,874	46,352	51,296	48,906	52,085	44,354
八栗ケープブル	249,643	248,973	238,935	262,611	249,593	247,592	314,964	276,436	265,954	274,556	295,707	255,110	244,227
石の民俗資料館	32,642	43,349	41,649	46,075	46,574	35,680	40,795	51,984	43,816	87,191	89,661	85,566	89,148
イサムノグチ庭園美術館	-	8,379	8,483	8,640	8,082	8,923	11,137	11,265	14,716	12,158	11,576	9,198	10,956
太鼓の鼻オートキャンプ場	-	-	3,262	4,379	4,280	3,253	3,130	2,106	3,345	4,309	5,051	5,004	5,181
純愛の聖地・庵治観光交流館	-	-	-	-	-	-	-	1,679	31,946	23,661	19,811	26,704	30,212
城岬公園	18,694	20,300	20,300	19,700	18,700	20,450	17,800	11,750	15,000	12,000	15,000	15,000	15,000
高松シンボルタワー	-	-	-	-	-	-	3,657,000	2,717,000	2,756,000	2,692,000	2,460,000	2,213,000	2,363,000
玉藻公園	153,714	140,197	140,578	151,525	148,915	147,609	149,226	130,830	126,607	134,938	135,761	149,520	147,851
栗林公園	901,328	671,135	534,241	525,796	572,706	533,262	522,304	527,377	567,136	645,275	631,765	645,631	585,775
高松市歴史資料館	13,683	15,126	11,143	9,781	9,993	11,356	10,412	13,700	19,786	17,431	24,783	21,019	21,905
香川県歴史博物館	-	13,959	122,877	203,195	74,311	105,680	110,770	80,762	211,283	75,258	163,766	157,096	135,860
高松平家物語歴史館	65,564	47,658	31,255	28,843	31,763	30,933	32,919	57,373	34,034	34,374	28,500	27,749	25,716

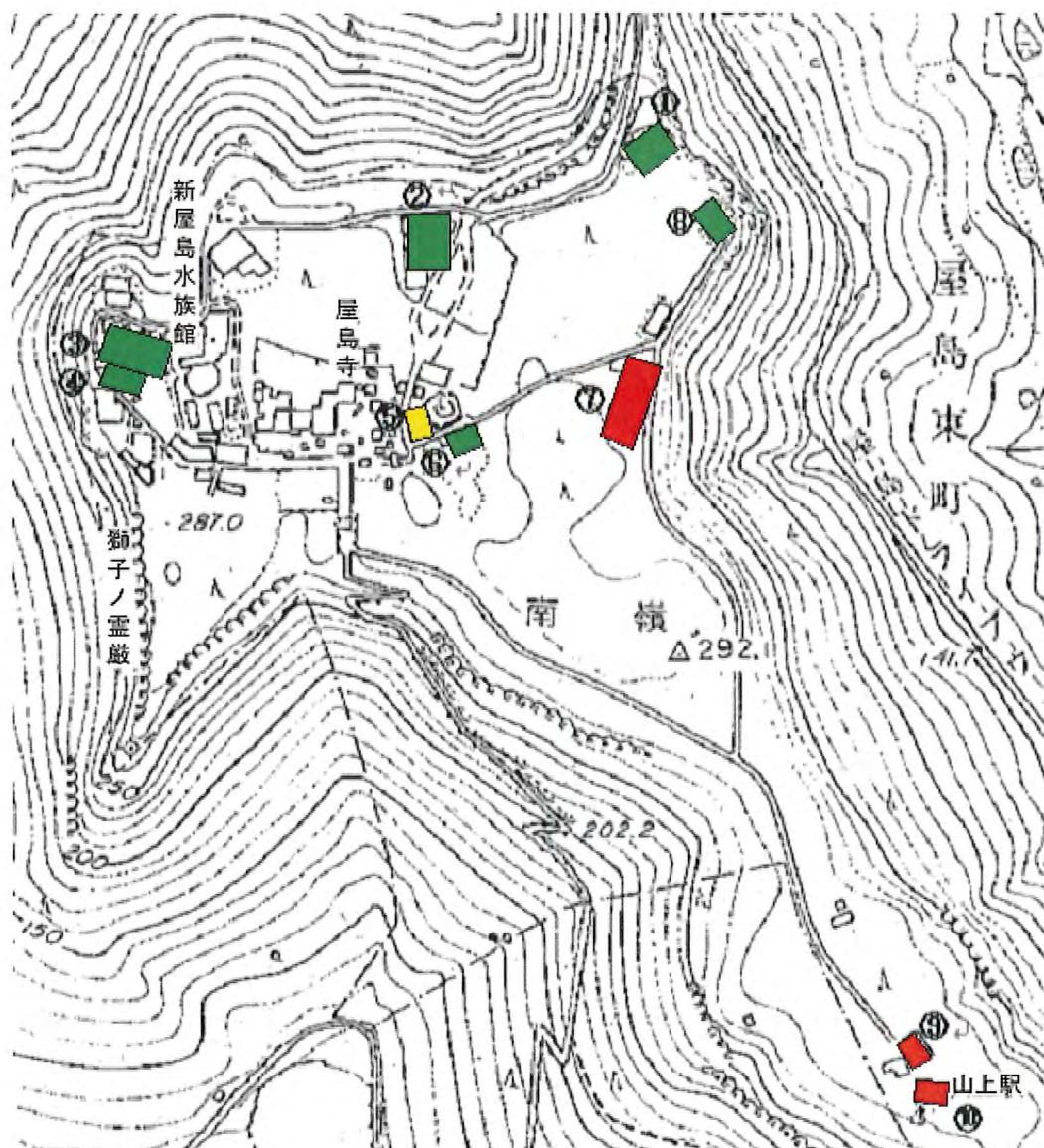
年度別利用者の推移



年度別利用者の推移







屋島山上廃屋施設の状況(H23.10.1現在)

番号	区分	施設名	備考
1		ホテル源平	H22.4撤去完了
2		屋島レストセンターYC (うどんの館を含む。)	H23.6撤去完了
3		屋島館	H23.9撤去完了
4		松観荘	H23.9撤去完了
5		血の池茶屋	現在一部はボランティアガイド 詰所として利用中
6		与八茶屋	H21.11撤去完了
7		ホテル甚五郎	
8		檀ノ浦旅館	H22.7撤去完了
9		宮地商店	
10		山上駅	

	撤去済みもしくは近々 撤去が完了する建物
	廃屋
	現在一部廃屋・一部利 用中の建物

2 屋島の歴史と文化財

(1) 屋島の歴史年表

西暦	年号	
	弥生	屋島山上において集落出現。
	5世紀初頭	屋島長崎鼻古墳が築造される。
667	(天智6)	屋嶋城が築城される。『日本書紀』
754	天平勝宝6	鑑真、屋島寺を開基し、屋島北嶺の地に堂宇を構えたと伝えられる。
810	弘仁元	空海、北嶺の堂宇を南嶺の地に遷して真言密教の道場とする。
	平安中期	屋島寺本尊である木造千手観音坐像がつくられる。
937	承平7	屋島南麓に大宮八幡神社が創建される。
1183	寿永2	平氏、屋島東麓に内裏と陣屋を構える。
1185	文治元	屋島檀ノ浦において、源平合戦が行われる。
1223	貞応2	屋島寺梵鐘が鑄造される。
	鎌倉末期	屋島寺本堂が建立される。
1335	建武2	屋島南麓の喜岡城主高松頼重、細川定禅と戦ったが、敗れて京都に逃れる。
1389	康応元	今川了俊、鹿苑院殿厳島諸記に屋島の記載あり。
1391	明德2	西大寺末寺帳に屋島寺の名、「屋島普賢寺」
	室町中期	世阿弥(1363～1443)の謡曲「屋島」の成立。
1445	文安2	兵庫北関入船納帳に方本の地名所見。塩の積出しが顕著(十河氏の直轄地か?)
1524	大永4	屋島寺梵鐘、一時金倉寺(善通寺市)に移される。
1585	天正13	宇喜多秀家・黒田孝高の連合軍、屋島南麓の喜岡城主高松左馬助邑を攻撃して敗死させる。
1618	元和4	龍巖上人、屋島寺本堂の解体修理を行う。
1637	寛永14	屋島は陸続きとなる。
1643	寛永20	佐藤継信の碑が初代高松藩主松平頼重によって建てられる。
1647	正保4	松平頼重、陸続きとなった屋島相引の地に相引川を切り開く。
1648	慶安元	松平頼重、屋島南麓を走る志度街道を大路として改修する。
1667	寛文7	松平頼重、松島から渦元までの間に堤防を築いて新田を開く。
貞享・元禄年間 (1684～1704)		一般民衆の間に四国遍路が盛行し、屋島寺が第84番札所となる。 以降、遍路道が整備される。
1755	宝暦5	屋島西岸に亥浜塩田が開かれる。
1756	宝暦6	亥浜塩田の南側に子浜塩田が開かれる。
1803	享和3	三谷林叟、屋島西麓で屋島焼を始める。
1808	文化5	伊能忠敬、屋島沿岸を測量する。
1815	文化12	8代高松藩主松平頼儀、屋島南麓に屋島東照宮を建立する。
1834	天保5	野津宮八渦元新浜塩田を開く。
1835	天保6	大久保家により屋島東岸に柏納屋浜塩田が開かれる。
1863	文久3	藤川三溪、藩命により屋島長崎鼻に砲台を築く。
1875	明治8	冠嶽神社、屋島神社と正式に名のる。
1887	明治20	渦元の塩田所有者、十州塩田組合を脱退して採塩事業を強行し、休浜反対運動を展開する。

西暦	年号	
1890	明治23	西潟元村・東潟元村・屋島村の三箇村が合併して潟元村となる。
1893	明治26	志度街道が県道浜道線となる。
1897	明治30	中通仁太郎、屋島東岸に立石浜塩田を開く。
1903	明治36	皇太子殿下(後の大正天皇)、屋島山上を訪れる。
1908	明治41	皇太子殿下屋島登山記念の運動場が山上に完成する。
1910	明治43	半田善兵衛、屋島西岸に屋島浜塩田を開く。
1911	明治44	高松・志度間に東讃電気軌道が開通して西潟元駅と屋島駅が設けられる。
1918	大正7	潟元・木太塩田で労働争議が起き、高松市での米騒動の引き金となる。
1920	大正9	屋島が香川県立国定公園に指定される。 潟元村が、屋島村に改称される。 県道浜道線が国道22号に格上げされる。
1922	大正11	屋島山上北嶺を巡る回遊路が完成する。 皇太子殿下(後の昭和天皇)、屋島山上を訪れる。
1925	大正14	高松・志度間に鉄道が開通して、屋島駅が設けられる。
1929	昭和4	屋島ケーブルが開業する。
1933	昭和8	屋島村が屋島町となる。
1934	昭和9	屋島が瀬戸内海国立公園に指定される。 屋島が史跡および天然記念物に指定される。
1935	昭和10	屋島山麓を回る一周道路が開通する。
1936	昭和11	屋島登山道および山上南嶺を巡る回遊道路の舗装工事が完成する。
1939	昭和14	国道22号高松・牟礼間のコンクリート舗装が完了し、別名「観光道路」と呼ばれる。
1940	昭和15	屋島町が高松市に編入される。
1943	昭和18	戦争の激化に伴い、屋島ケーブルが閉鎖される。
1945	昭和20	高松空襲による罹災者のほか、海外引き揚げ者、復員者等により屋島地区の人口が一時的に急増する。
1950	昭和25	戦争によって閉鎖されていた屋島ケーブルが営業運転を再開する。
1951	昭和26	屋島塩業協同組合が設立される。
1952	昭和27	国道22号が国道11号に名称変更される。
1953	昭和28	屋島西町に屋島塩業協同組合による真空式製塩工場が完成する。 屋島陸上競技場が完成し、第8回国民体育大会開会式が行われる。
1954	昭和29	屋島山上へ水道送水が行われ、山上地区の水不足が解消する。
1955	昭和30	屋島寺所蔵の木造千手観音坐像が国の重要文化財に指定される。 屋島寺本堂が国の重要文化財に指定される。
1957	昭和32	屋島塩業協同組合の潟元新浜・亥浜・子浜・屋島浜の各塩田が流下式塩田への転換を終える。
1960	昭和35	屋島塩業協同組合の製塩業が採かん過程のみに縮小される。
1961	昭和36	屋島ドライブウェイが開通する。
1963	昭和38	屋島東町に瀬戸内海栽培漁業センター屋島事業場が完成する。
1967	昭和42	屋島寺所蔵の梵鐘が国の重要文化財に指定される。
1969	昭和44	屋島山上水族館が開館する。

西暦	年号	
1971	昭和46	屋島東町に香川県水産試験場が完成する。 香川県中央都市計画区域が定められ、屋島地区でも市街化区域および市街化調整区域の線引きが行われる。
1972	昭和47	屋島に過去最高の246万人もの観光客が訪れ、観光の黄金期を迎える。
1973	昭和48	屋島中町の屋島神社社殿が全焼する。
昭和48～56 (1973～1981)		屋島西町の廃止塩田跡地に土地区画整理事業が実施される。 (このころから屋島山麓部の市街化と人口増加が進む。)
1975	昭和50	屋島東町に屋島少年自然の家が開館する。
1976	昭和51	香川県が史跡天然記念物屋島保存管理計画を策定する。 屋島南麓に財団法人四国民家博物館が開館する。
1982	昭和57	屋島東町に屋島東小学校が開校する。 屋島西町に東部下水処理場が完成する。 屋島西町に都市計画道路高松海岸線が開通する。
1983	昭和58	屋島西町に屋島西小学校が開校する。
1985	昭和60	源平フェスティバル（源平合戦八〇〇年祭）が開催される。
1986	昭和61	屋島西町に都市計画道路屋島東山崎線が開通する。
1993	平成 5	高松テルサ開館
1998	平成10	屋島南嶺において、民間研究者が屋嶋城跡の石垣を確認する。
2000	平成12	屋島北嶺において、千間堂跡の仏堂跡を確認する。
2002	平成14	屋島南嶺において、高松市教育委員会が屋嶋城跡の城門遺構を確認する。
2004	平成16	屋島ケーブルが休止される。 高松市が史跡天然記念物屋島保存管理計画を改訂する。
2005	平成17	屋島ケーブルが廃止される。
2006	平成18	新屋島水族館がリニューアルオープンする。
2006	平成18	屋島山上シャトルバスの運行を開始する。
2008	平成20	J R 屋島駅に観光案内スペースを設置する。

(2) 屋島の文化財

①文化財指定状況

屋島は文化財として史跡及び天然記念物の指定を受けているが、その状況は以下の通りである。

名称	屋島
所在地	高松市屋島西町、屋島東町、屋島中町、高松町
指定	国指定 史跡及び天然記念物
指定日	昭和9年11月10日(文部省告示第275号)
指定地域	相引川以北の全半島部とその地先100mまでの海面区域を含む 面積約10km ²
説明	瀬戸内海火山脈ノ特有熔岩トシテ知ラレ世界的ニ稀有ナル古銅輝石安山岩ヨリ成 レル南北ニ長キ熔岩臺地ニシテ遠望屋状ヲ成シ山容雄偉ナリ頂上ハ平夷ナレドモ 四周絶壁ヲ繞ラシ地形上「メサ」ノ標式的ナルモノトシテ其ノ名ヲ知ラル又頂上 近キ處ニ露出スル通称「畳石」ハ板状節理ノ最モ美ナルモノシテ著名ナリ 山上ニ立チテ眼ヲ放テバ西方水邊ニ近ク高松市ノ城櫓家屋ヲ望ミ海上ニハ大小ノ 島嶼浮ベルヲ見ル其ノ一帯ノ地ハ史蹟ニ富ミ天智天皇6年外冠防備ノ為メニ築カ レタル山城ノ一ナリ又唐僧鑑真ノ創建ト傳フル屋島寺アリ壽永3年平宗盛等安徳 天皇ヲ奉ジテ此ニ據リ源平2氏ノ接戦セシ所ニシテ古戦場トシテ世ニ知ラル
指定理由 依ル	保存要目史蹟ノ部第1、第2及第4並ニ天然記念物中地質礦物ノ部第1及第8ニ 依ル
保存要件	公益上必要己ムヲ得サル場合ノ外現状ノ変更ハ之ヲ許可セサルコトヲ要ス
管理団体	高松市(昭和9年12月21日)

②主要な文化財の概要

(P24主な文化財分布図参照)

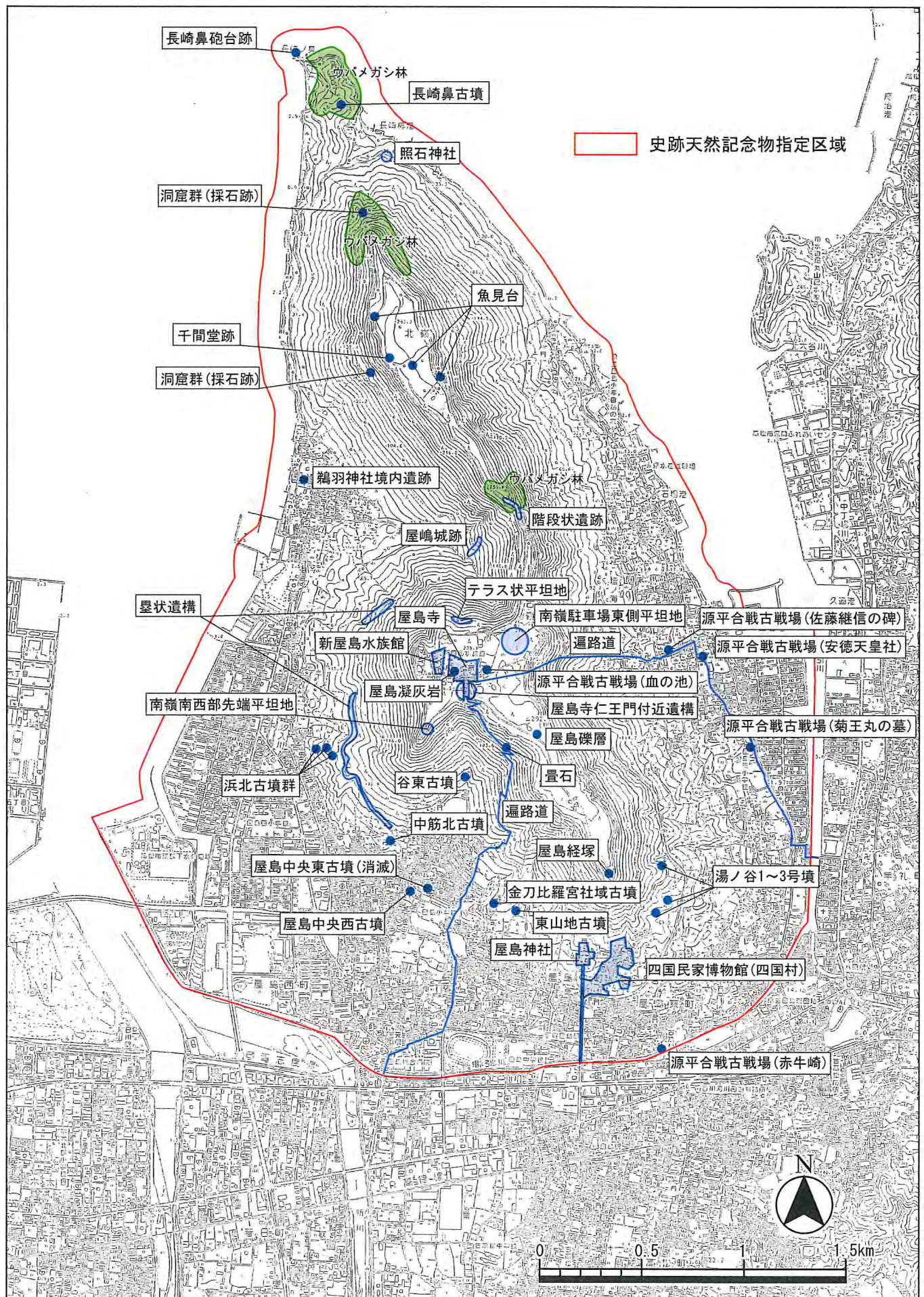
屋島の主な文化財

名称	概要
屋嶋城跡	・天智天皇6年に築かれた古代山城。 ・平成10年に一部の石垣が、また平成14年には城門遺構が確認された。 ・現在、保存整備工事が実施されている。
屋島寺	・創建(754年)は鑑真とされ、その後空海が南嶺に伽藍を移し、真言密教の道場にしたと伝えられる。 ・現在は四国霊場八十八ヶ所第八十四番札所の四国霊場として参詣者の人影が絶えない。 ・創建以来長い歴史をもつ屋島寺には、重要文化財屋島寺本堂、木造千手観音坐像、梵鐘の指定文化財も含め、数多くの寺宝が残されている。 ・平成2年の宝物館改修に伴う発掘調査では、平安及び鎌倉時代に比定される瓦など、寺の歴史を伝える遺物が出土している。また、本堂北側には屋島寺に関連すると思われる土塁状遺構が、仁王門東側には空堀状遺構がある。
遍路道	・四国霊場八十八ヶ所の札所を巡る遍路道。 ・沿道には今も道標、丁石が残されている。 ・起点の大橋から屋島小学校辺りまでの道は屋島内の主要道として利用されているため往時の面影は殆どとどめていないが、道端に残る道標などでかつての遍路道の面影をわずかに偲ぶことができる。 ・山中には加持水や不喰梨といった、大師にまつわる伝承地をはじめ、石碑や石仏が点在しているが、現在は利用する人は少ない。 ・屋島寺から八栗寺(八十五番札所)に至る遍路道は、「四国の道」に指定されているが、非常な急坂であり、現在は草木が茂り、通行する人は少ない。
源平合戦古戦場	・源平合戦の戦跡。 ・佐藤継信、安德天皇社、菊王丸の墓、赤牛崎、血の池等の伝承地がある。 ・名称標、解説板等が設置されている箇所もあるが、訪れる人は少ない。 ・これらは全て伝承であり、考古学的検証は得られていないが、鎌倉時代に記された吾妻鏡には「以讃岐國屋嶋為城郭」、「屋嶋内裏」、「焼失内裏併内府休幕以下舍屋」などの記載があり、今後の各種の調査研究が期待される。

名称	概要
メサ地形	・屋島の天然記念物としての指定理由のひとつで屋島の山容を形づくっている。 ・屋島の天然記念物の指定条件として「～頂上ハ平夷ナレドモ四周絶壁ヲ繞ラシ地形上『メサ』ノ標式的ナルモノトシテ其ノ名ヲ知ラル」とあり、卓上岩石による屋島の地形を最も特徴づけている。 ・浸食作用によってできた安山岩の垂直に切り立った崖が山頂の平坦面を取り囲む特徴的な景観を呈している。 ・道路整備等の造成による人工的法面が目立つ所や、住宅等建築物による裾部での地形の改変などが見られる。また、メサ地形の裾部は建物等により隠されている。
眺望点	・史跡天然物の指定説明に「山上ニ立チテ眼ヲ放テバ西方水邊ニ近ク高松市ノ城櫓家屋ヲ望ミ海上ニハ大小ノ島嶼浮ベルヲ見ル」とあるように、メサ地形からなる屋島の山頂からの眺望は優れ、名勝的価値を高めている。 ・南嶺西方の獅子の霊巖、東方の談古嶺、北嶺先端の遊鶴亭からはそれぞれ高松市街地・五色台方面、源平古戦場の檀ノ浦一帯、女木島、男木島などの瀬戸内海の多島美を眺望でき、屋島三大展望所となっている。 ・また、北嶺魚見台についても良好な展望所として整備されている。さらに南嶺屋島経塚所在地は南方への、小規模な削平地のある南嶺南西の突出部も南西への絶好の眺望を有している。また、屋島ドライブウェイには数箇所の展望台が整備され、檀ノ浦への眺望点となっている。 ・この他にも整備された展望台が数箇所ある他、山頂部随所の木々の合間から眼下を一望できる。
畳石	・讃岐岩質安山岩の水平方向に発達した板状節理の露頭で、屋島寺へ至る遍路道沿いの南嶺南斜面に位置する。 ・遍路道の改修等により一部削平されているところがある。 ・風化や樹木等の成長により崩落が予測される箇所もある。
長崎鼻古墳	・古墳時代前期末～中期初めの葺石をもつ前方後円墳。 ・阿蘇熔結凝灰岩の石棺が埋納されている。 ・平成8～10年度には確認調査がされたが、今後、本格的な発掘調査や遺構の解明、さらにはその成果を生かした保存のための環境整備が望まれる。
長崎鼻砲台跡	・文久3年(1863年)に藤川三溪によって築かれた砲台跡。 ・現在も下段の強固な石積や、上段の屯所跡に方形の土塁跡が遺存している。 ・解説板、名称標や階段が整備され、釣り客などの姿もよく見られる。 ・砲台を設けられた場所にふさわしく眺望に優れ、女木島、男木島、大島、豊島、小豆島などを一望に望むことができる。
屋島経塚	・石材を積み上げた経塚跡で、日本最大級の規模。 ・江戸時代に積石の下から一切経を確認したと伝えられており、一切経の埋納は希少である。 ・アクセス道は倒木や雑草等で分かりにくく、経塚周辺も雑草等で覆われている。 ・南嶺先端部で良好な展望を有するが、マツの枯木等がそれを妨げている。

名称	概要
ウバメガシ林	・原生林に近いウバメガシ(ブナ科)の群落で北嶺先端部に見られる他、南嶺にも点在している。 ・屋島を特徴づける植生である。
屋島凝灰岩	・白色の酸性凝灰岩の堆積物で屋島寺境内にある。 ・白色の酸性凝灰岩が見られるのは香川県では他1箇所のみで貴重。 ・屋島寺ではこの凝灰岩の表面を造形して雪を見立てて作庭し、名所(雪の庭)となっている。 ・屋島寺境内の屋島寺宝物館(有料)で利用者は見学できる。
屋島礫層	・湖沼性堆積物の細礫層。 ・屋島および瀬戸内の地史の変遷を物語る貴重な地層。
鵜羽神社境内遺跡	・鵜羽神社域の古墳時代後期師楽式土器の散布地。 ・遺跡の広がり等は確認できていないが、海浜部の遺跡として、かつ登山口に位置する遺跡として重要である。
洞窟群(採石跡)	・標高150m前後の地点にある凝灰岩の採石場跡の洞窟。 ・北嶺北部に7箇所の洞窟、北嶺西部に1箇所が確認されており、中には長さ120m以上にわたるものも見られる。 ・棲息していたコウモリの種及び生息数は激減している。
浜北古墳群	・前方後円墳(1号墳)及び円墳からなる。 ・全般に墳丘の残りが悪く、1号墳からは土器が出土している。
中筋北古墳	・円墳。
屋島中央東古墳	・巨石を用いた横穴式石室をもつ古墳といわれているが、住宅地の造成で現在は消滅している。
屋島中央西古墳	・巨石を用いた横穴式石室をもつ古墳。 ・墳丘は大半が削平され、石室が露出している。
金刀比羅宮社域古墳	・径約8mの円墳。墳丘は失われ、箱式石棺の一部が露出している。石室石材を転用した祠がある。
東山地古墳	・巨石を用いた横穴式石室を持つ古墳。
谷東古墳	・横穴式石室をもつ古墳。
湯の谷1～3号墳	・墳丘は消滅、盗掘穴と見られるくぼ地で古墳の存在を確認できる程度。
魚見台	・北嶺の山頂部。江戸時代、魚群等の発見に使われていた物見台跡。屋島の漁業の歴史を知る上で貴重である。 ・現在も良好な眺望を有し、展望所として整備されている。

名称	概要
屋島神社と参道	・ 初代藩主松平頼重が東照宮の神霊を奉納したのに始まり、8代藩主によって当地に移された。12年の歳月をかけて文化元年(1804)に完成した。 ・ 昭和48年の失火で本殿・拝殿が全焼し、唐門等が往時の姿をとどめている。 ・ 屋島神社からは直線状の参道が相引川を越えて南方に延びている。
テラス状平坦地	・ 南嶺山頂、平坦面の北側斜面にあたる幅約2m、延長約100mの帯状地形。
千間堂跡	・ 北嶺山頂に伝わる屋島寺の創建跡地。
塁状遺構	・ 南嶺西側山麓のほぼ傾斜変換点を走る総延長数百mに及ぶ土塁で、山側に溝がある。ただし、突出した尾根を横切る部分は空堀状になる。特に南部は土塁、溝とも規模が大きく、また浸食が著しい箇所もある。
南嶺駐車場東側平坦地	・ 三段に整えられた平坦面。段差は1m弱を測り、各々直線的に平行して走る。
南嶺南西部先端平坦地	・ 岬状に突出した尾根筋の先端で、周囲の眺望に優れる。 ・ 露岩に善女龍王の陰刻があり、周囲には破棄された石祠も存在する。
階段状遺構	・ 北嶺の山頂部に石積による十数段の階段状施設が道路に沿って築かれている。
照石神社	・ 通称「オテレッサン」。巨石信仰の典型的な例。 ・ 北側に接して県道が走る他は、周囲は雑木を主体とした山林になっている。



主な文化財分布図